

# 入所児童ら、50<sup>キロ</sup>の旅



## 室蘭言泉学園 2泊3日で歩ききる

天候に恵まれ元気に歩く児童ら（提供写真）

障害のある子どもたちの入所施設、室蘭言泉学園（母恋南町）の恒例行事「50kmあるかい？」が19日から行われ、30人の入居児童らが登別市富岸町の亀田記念公園―苫小牧市ときわ町のスケートセンターの計50<sup>キロ</sup>を2泊3日で歩ききった。

50km―は、1990年（平成2年）に入所児童の一人が「稚内まで歩きたいね」と言ったことがきっかけで始まった。当初は1泊2日で歩いていたが、15年前から2泊3日に変更。今回が30回目の節目となった。

児童・生徒と職員は、初日は亀田記念公園から白老町の虎杖浜温泉まで、2日目は新設された白老駅インフォメーションセンターまで、3日目にゴールまで歩いた。例年は到着先で宿泊するが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今回はバスで学

園に戻り、学園で宿泊。翌朝バスで出発先まで移動する方式を採用。伴走車も用意し、途中で歩けなくなった児童を乗せたり、人が集まる場所やコンビニエンスストアに入る際はマスクを着用するなどの感染対策を講じた。

初参加の生徒(16)は「初日の坂道が大変で疲れましたが、最終日は頑張って歩きました。来年もまた参加したいです」と笑顔を見せていた。伊藤裕司施設長は「車いすやバギーに乗っている子どもを自主的に押してくれるシーンも見られた。コロナ禍で活動を自粛・制限している中、無事に開催できて子どもたちも喜んでいるし、職員も達成感があったと思う。今後も少しずつ安全を確保しながら子どもたちが喜ぶ行事を再開していきたい」と語った。（北川誠）